

## 心理学専攻（博士前期課程）

### 1. 教育研究上の目的

心理学専攻は、専門的な心理学の知識を修得し、客観的なデータと論理的な議論を通じて、自らの関心や問題意識を深めながら研究を主体的に進める能力を養い、現代の人間理解と社会問題の解決に寄与できる心理学の研究者又は実務者を養成する。

### 2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学専攻（博士前期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（心理学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 現代の人間理解と社会問題の解決に寄与する専門的な心理学の知識を獲得している。
2. 心理学の研究者ないし実務者として社会に貢献できる研究能力・実践的スキルを修得している。

（思考・判断・表現）

3. 実証的なデータに基づいて、論理的な議論を通じて、説得力のある主張を論文として構築することができる。
4. 研究参加者の権利と研究者の社会的責任を考慮して、研究の倫理に関して適切に判断することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 新しい問題の発見や新しい方法の開発を通して、自らの関心や問題意識を深め、研究を自律的かつ継続的に進めることができる。

### 3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 心理学の研究実践に必要な専門的知識と研究方法を修得するため、「心理学演習」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現）
2. 特定の研究テーマの最新の知見を修得するため、「特殊研究」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現）

3. 研究の関心の幅を広げるため、他大学院研究科との相互交流協定を通じて相互の履修を認める。(関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
2. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能及び思考・判断・表現の修得に関しては、修士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 演習科目において、具体的な研究テーマに関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力を測る。
3. 指導教授による論文指導において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、修士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

#### 4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

心理学専攻 (博士前期課程) では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 現代の人間理解と社会問題の解決に寄与する心理学の基本的な知識を獲得している。
2. 心理現象や社会現象を客観的に捉えるための基礎となる研究法・測定法・データ解析法を修得している。

(思考・判断・表現)

3. 人間の心理に対するアプローチの多様性を理解し、自らも複数の観点から人間の心理を捉えることができる。
4. 心の主観的な性質と個別性を十分に認識しつつ、同時にその普遍的な性質に基づいて客観的に把握するという心理学的な視点を獲得している。

(関心・意欲・態度)

5. 人間とその心に向けられた自分の問題意識を認識するとともに、その背後にある自分の人間観や価値観を相対化できている。

6. 自分で問題を設定し、適切な方法を選択して研究を実施し、自らの主張を論理的かつ説得力のある仕方で展開できる。

以 上